

図3 NASA誘導・II誘導

モニター心電図の要点

不規則な波形

心室細動のモニター心電図波形（図4）をみてみましょう。心電図波形といっても見慣れたP波やQRS波はなく、決まった形がない、振幅が常時変化する不規則な形を示していることがわかれると思います。このように不規則であることが心室細動の特徴です。このような特徴があることから、不規則な波の代表であるノイズとの識別が問題となるように思いますが、これを解決する最もよい方法は、波形だけで判断しないということです。患者の状態をチェックすることが一番の鑑別方法になるということは、いうまでもありません（MEMO1）。

さまざまな形

心室細動の不規則な形にもさまざまあり、図4Aのように完全にノイズのようなものや、図4Bのように一時的に幅広いQRS波形様に見

えるもの、図4Cのようにジグザグ波形に見えるものなどがあります。

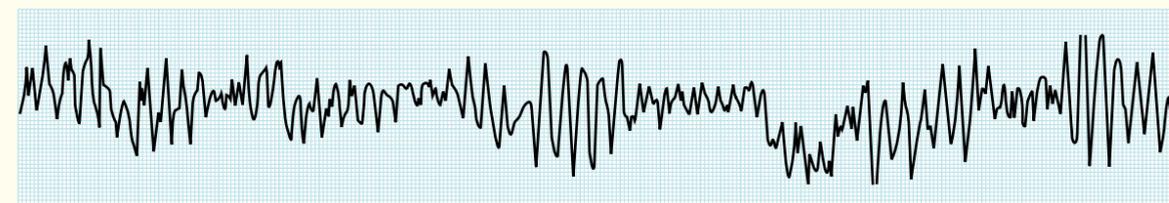
図4Bや図4Cは、多形性心室頻拍からの移行時によくみられ、心室細動（VF）のなかでもとくに「coarse VF」と呼ばれます。coarseは「粗い」という意味ですが、心室細動の振幅が大きく変化するときに使われる用語です。一方、反対に「fine VF」という用語もあります。これは、まさにfineな（細かい）、振幅の変化の少ない波形を示す図4Dのような心室細動を指します。

MEMO

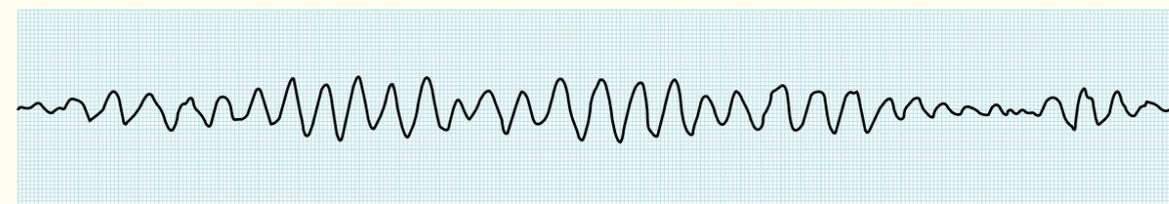
1 本当にノイズ!?

みなさん、病棟での仕事に慣れてくると、心電図モニターのアラームが鳴っても「どうせ、体動でノイズを拾っているのだろう」と放置するようになるようです。しかし、それは大変危険です。前述した通り、波形だけでノイズと識別することは困難なことが多いため、一刻を争う病態である心室細動を見逃すことにもなりかねません。常に、患者の状況をチェックするような体制を整えましょう。また、簡単にノイズが出ないように、心電図電極の貼り方を工夫することも大切です。

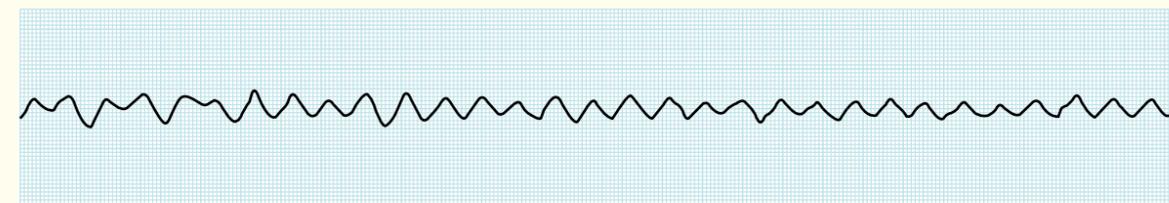
A 振幅変化の激しい、粗い心室細動



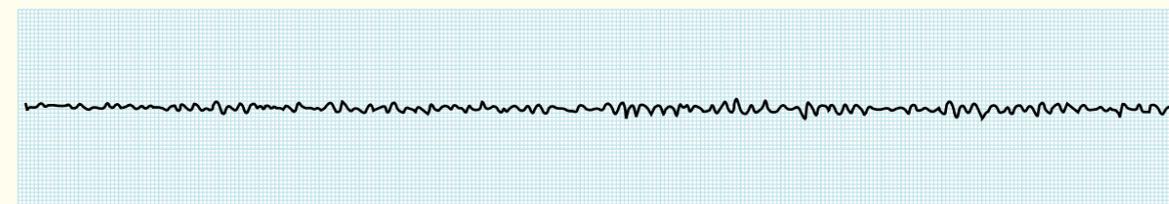
B やや遅い、粗い心室細動



C 鋸歯状波のような粗い心室細動



D 細かい心室細動



E 粗い心室細動から細かい心室細動への移行

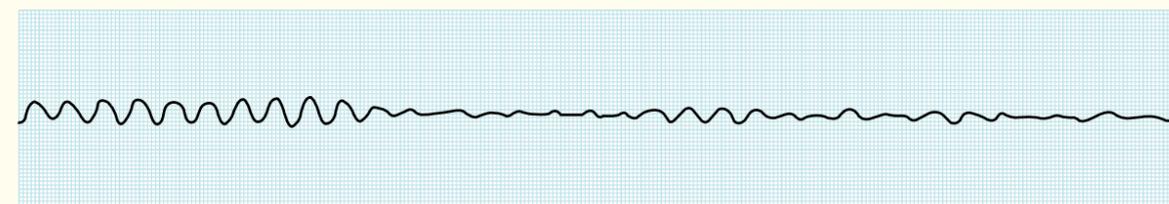


図4 さまざまな心室細動の例